

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台文学館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 44,836人(前年度比 83%) 令和3年度 53,912人 令和2年度 37,334人	
	《事業》 ・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 195,840千円(191,668千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 5,397千円(9,130千円) ・ その他収入 1,303千円(1,408千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ご意見箱を設置して、常時意見をいただいている。 ・特別展や企画展ごとのアンケートを実施。 ・施設利用者アンケートの実施	

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や基本方針について、職員間で共通理解がなされており、利用者へ対しても適切に周知している。展示だけではなく、文学関係者・団体との共催事業や文学について深く学べる講座を多彩な内容で実施しており、文学館の設置目的に合った取り組みを積極的に行っている。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の業務実績や配置、仕様書や事業計画に即した業務の実施状況等は適切である。また、経理について、帳簿の整理・保管や市への報告等、適切になされており、個人情報等の情報管理についても、市の規定に準じて取り組んでいる。災害発生時の対応について、防災マニュアルに基づく訓練を適切に行うとともに、災害時の情報連絡体制・役割分担も明示されている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	屋内の管理については、法定点検のほか、職員による自主点検を実施のうえ、老朽化等による不具合等について早期に発見し、速やかに市へ報告がなされている。また、来館者の利用に不便が生じないよう、応急措置等についても速やかに実施しており、安全面や快適な利用環境の維持に対する意識が高い。屋外の管理については、近年大型の台風や豪雨が相次いでいるため、台原森林公園に隣接し、樹木に囲まれた環境であることから、倒木の点検を行い、速やかに市への報告を行うとともに、優先度を決めて伐採を行い、適切な管理がなされている。	24/24
IV サービスの質の向上	定例ミーティングや研修、OJT等により接遇や必要な情報をしっかり身に付けており、来館者に対し、親切丁寧な対応がなされている。情報発信についても、ホームページのほか、ツイッター等SNSを効果的に活用することにより、幅広い世代へ情報が行きわたるよう取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	質の高い展示を行っている点について、椎名誠展では愛用品や旅のお土産等も展示する、山内ジョージでは多くの文字絵の展示を行うなど、視覚的にも分かりやすく、工夫された展示であった。有識者による運営協議会では椎名誠展でのお土産等の展示が面白かったとの声があり、物にこだわった展示をより行うべきとのご意見もあった。 充実した図録等を制作している点について、山内ジョージ展に関連して、山内氏の生涯や作品をまとめた図録を販売したところ好評となり、会期中に完売し増刷となった。来場者の関心に応えるような図録やグッズを制作できている点を評価したい。 使用料の払込納入が翌々日になった件について、以後同様のミスが起きないよう、複数人でフォローする等適正な管理の徹底に努められたい。	49/48

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営は、施設所管課と定期的な打ち合わせのほか、電話、メールなどで情報交換を行い、関係法令並びに協定書等に基づき適切に運営を行った。内部では毎朝の事務連絡、毎週水曜日に各委託業者の事務連絡及びその直後に職員全員で情報交換を行って連携して業務にあたることで、スムーズな市民サービスの提供を行った。施設管理料確定額は、195,840千円と昨年度を4,172千円ほど上回っている。主な原因は、燃料費の高騰により、光熱水料費が大幅に増加したことによる。また、開館から20年以上が過ぎ、館内各設備が経年劣化で不具合が頻発してきている。2026年の大規模改修を見据えて計画的に修理を実施し、適時に対応していきたい。入館者は44,836人、観覧者数は16,898人だった。展示は、春は作家・椎名誠の旅をテーマにした展示、夏と秋は宮城ゆかりの漫画家の展示、冬は仙台コレクションメンバーとの共同企画の写真展と、親しみやすい内容で好評を得た。特に秋の「山内ジョージ展」は、家族三世代の来館が目立ち、アンケートも通常を上回る566枚が寄せられ、絵はがきや展示パンフレットは会期中中に完売し増刷を行った。仙台コレクションメンバーとの写真展も通常の来館者層とは異なる若い世代が目立ち、この世代への当館の認知度が高まった。事業では、昨年同様の募集形式で開催した「ことばの祭典」には、昨年の1.6倍を超える832作品が寄せられた。館長講座やゼミナール、展示関連事業など、参加人数は2,644人となり、昨年度よりも約1.3倍と増加した。秋には16年ぶりに全国文学館協議会の展示情報部会を開催。30を超える全国の文学館の職員と意見交換を行い、連携を図った。文学資料は購入641点、寄贈906点を受け入れた。次年度はアフターコロナの状況を見据え、事業の見直しを図りつつ、新規事業も立ち上げながら、展開していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和4年度も引き続き感染拡大防止対策を講じ、安全な施設運営に努めていた。</p> <p>施設運営については、開館や施設貸出、帳簿等の整備保管、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他必要な書類の整備、諸手続き等、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。定例ミーティングや研修等を通して、業務の手順や必要な情報について職員間で共有されており、組織的な運営管理体制が構築されている。</p> <p>講座等についても、職員と市内外の文学関係者とのネットワークやこれまで構築してきた信頼関係のもと、様々な講師を招いて、幅広い視点から文学を学べる講座を実施し、市民の教養の向上に寄与する取り組みであったと言える。</p> <p>特に、特別展や企画展においては、全体的に質の高い展示であったことを評価する。春は作家・椎名誠の旅をテーマにした展示、夏はいがらしみきおの「忍ペンまん丸」展、秋は山内ジョージの文字絵に着目した展示、冬は仙台コレクションの写真展と、文学以外に漫画やアート等も幅広く取り上げた。椎名誠展では著書以外に愛用品等も展示し、山内ジョージ展では多くの文字絵の展示を行うなど、視覚的にも分かりやすく親しみやすい内容であった。「忍ペンまん丸」展では6割近くが初めて文学館を訪れた方であり、若い世代やこれまで文学館に関心がなかった層にも文学館へ足を運んでもらえた。</p> <p>また、山内ジョージ展に関連して、山内氏の生涯や作品をまとめ作成した図録が大変好評であったことから、来場者の関心に応えるような図録やグッズを制作できている点についても評価する。</p> <p>一方、使用料に関する事務処理ミスがあったため、今後は複数人でフォローする等適正な管理の徹底に努められたい。</p> <p>今後も安全安心な施設運営に努めるとともに、同館の魅力を広く発信し、市民の文学への興味関心を醸成する展示や講座の企画に努めていただきたい。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):文化観光局文化スポーツ部文化振興課